

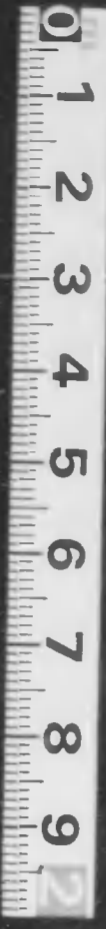
寫眞週報

内閣情報部編輯
七月廿日・第三十號

昭和十七年七月廿日發行
（普通）四水曜日發行
第七十號



嵐の赤露





ソウイェト名物の海
濱(モスコイ海岸)

嵐の赤糸路

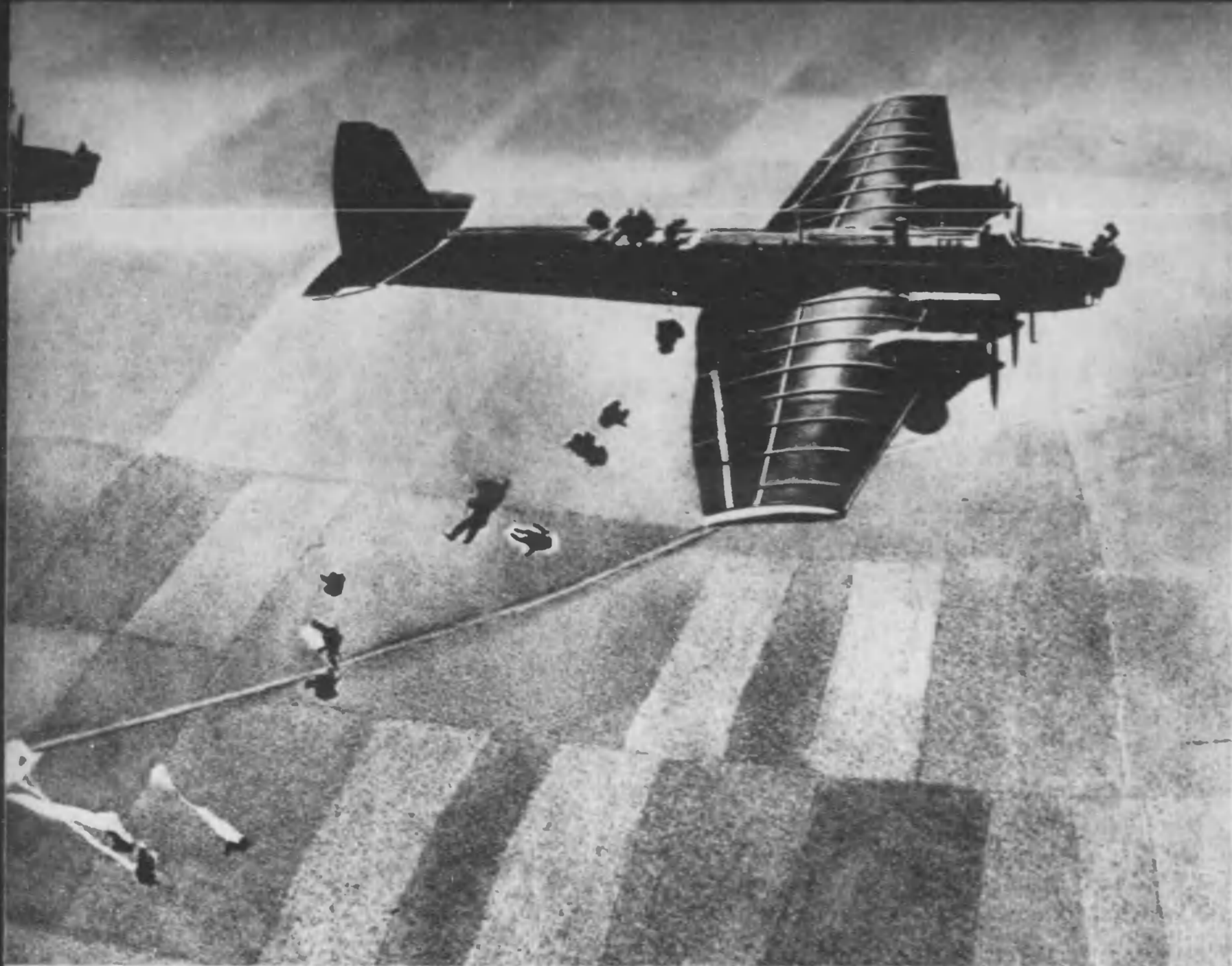
リュシコフ大尉は、ソ連軍清の嵐に送られて脱走の如く満洲國へ逃げに込んだ。何がリュシコフ大尉に國境を越えさせたか、赤糸の土に踏え、草木は刺の毒を持つてゐたのだ。

健康は資源な〜鍛へよ〜海に

- 丸士富・路航西東
- 丸大一路航西東
- 丸嶺南・路航津天
- 丸嶺千・路航連天

北支・臺灣
小笠原・樺太・千島へは
近海郵船で
青島・上海・南洋へは
日本郵船で

近海郵船
内の丸・京東・店本



太平洋艦隊のもつ最新鋭四連装の高射機銃。
赤軍の異色あるお家畜、敵戦場後方墳墓に投じたこのパラシュート隊は、T-11型重機銃後に数ヶ中隊を乗り込ませ、武装のまゝで大量に輸送する。
西部支那、西シベリヤと境を接するコサツク義勇軍の狙撃兵。



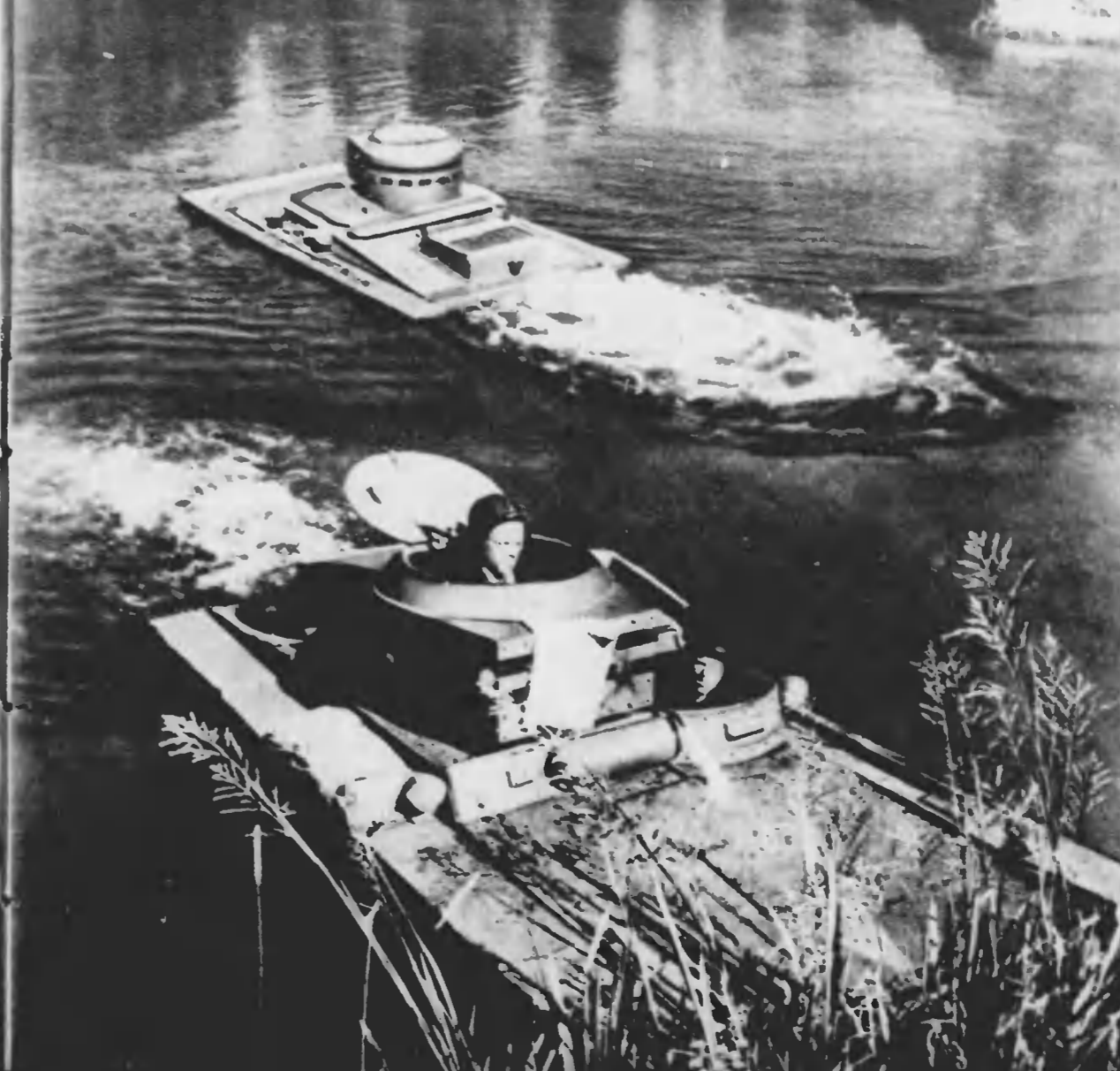
赤軍の現状

赤軍は一九三九年十一月、ソ支抗争の時ブリュッセル指針の下に滿洲に侵入、一舉に當時の東北軍を撃破したといふ戦歴をもつてゐる。

この戦功によつて赤軍はスコリアンからわが國の金庫庫に相當する赤軍軍をさげられ、以て、特別赤軍軍の名を授けられた。ソ支抗争の當時はわが歩兵四ヶ師團、一旅團にすぎなかつたこの赤軍軍は、一九三一年の滿洲事變以後急激にその兵力を増加し、今次支那事變勃發以後は一層強力なものになりつゝある。

即ち、今はからずも世界中にセンセーションを巻き起してゐる、國境脱出日本へ身を以て逃げ込んだ梅根、ベ、ウ、長官リユシコフ三等大將の手記を見ても知るやうに今次事變直前に赤軍とソバイカル軍管區とを合せて、ソバイカル軍管區を合せて二十ヶ師團、ソバイカル軍管區を合せてソバイカル湖以東に二十五ヶ師團内外の狙撃師團と四、五ヶ師團の騎兵部隊、五、六ヶ旅團の機械化部隊が待機してゐり、その總兵力は四十萬人に達する。

ソ聯東部地方の人口は百八十萬足らず、ソバイカル地方を加へても二百五十萬、この地方に日本の常駐兵力よりはるかに多い四十萬の大軍を擁し、赤い防色一色に塗りつぶしてゐるのは果して何を意味するか？ 殊に極東の中で注目すべきは



航空兵力の弱くべき國勢であり、リュニョフは僅かに千機に近づいてゐるがその實数はいくらか見ても千五百六百機はあるものと思はれる。そのなかには超重機銃として世界的に有名な「B」機を多量にばりてゐる。最近では更に新しい型の高速遠距離攻撃機として「C」機が配備されてゐるといふ。これらの諸機は赤軍が如何にか内地、朝鮮、滿洲等の要地に對する空中攻撃を重視してゐることを證明するものといはねばならない。このことは極東赤軍の配備を考へて見るとなは一層明らかになつてくる。

即ち、極東赤軍の主力は南部沿海州のウラジオ及びニコリスク地方に配備されてゐて、その戦術態勢はあくまでも内地と滿洲とを連絡する重要連絡線を脅威することとなるのである。殊に同方面に配備されてゐる空軍の主力は南部沿海州を中心にしてウラジオ及びニコリスクの半徑を捕らした雄軍の行動圏をもつてゐる。この中には當然わが本州、北海道、樺太、九州、朝鮮、滿洲國の諸要地が含まれてゐる。

同時にわが國は、ウラジオ及び沿海州の各地江漢に分散根據地を有する太平洋艦隊の潜水艦隊を注目しなければならぬ。一朝有事の際にはわが帝國海軍の艦隊によつて彼らの活動を妨害しうるであらうことは勿論であるが、それではなほ、三十四年前日露戦争當時のウラジオ艦隊の活動を想ひ出すならわが國は決して油断出来ない。

今や極東赤軍の配備は全く戦争準備の態勢におかれその日には、たゞに空軍力が活動を開始し、敵時間ならずして内陸部の各重要地帯に空襲機飛行隊の空襲を受けし可能性を考へる必要がある。

政の實際と理想との間の必然的な乖ひがひに際しては、たゞ自己防衛確立のためには、無二國內不平等分子を反革命・トロツキストとしておろす外に附した所謂「血の潔化」でもつた。

ソ聯全土にみまき、てゐる態度、軍政兩面からの深刻な矛盾相、リュニョフ大將の手記は今まで半信半疑でゐたこれらの懸念を悉く白日にさらしてしまつたのである。



陸軍省新聞班
カットは極東軍司令官ブリュッセル元帥(右)

赤軍機械化兵團の誇る水陸兩用タンク。



ソウエスト政府機密の指導的地位にあつた私が、どうしてソウエストを脱出すると言ふ様な思ひ切つたことをするに至つたか？それは色々な後援によつて、私自身が清の危険に曝されて居ると言ふことを直感するに至つたからである。私は近い内に莫大の科動務として召還せられると言ふ通知を受け取つたが、其後間もなく極東地方軍委員会書記スタウエウイも亦莫大の科動務の通知を受け取つた。

1) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

1) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

1) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

2) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

2) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

2) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

邦脱出の手記

33 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

33 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

33 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

34) Два слова о моих
первых впечатлениях
о Японии. Мне как светилу
геноцида, впервые посетив
Японию, сразу пришлось
в глаза увидеть, что
советские коммунисты
на Курильском архипелаге
вопреки утверждениям
советской прессы о
благородном колониальном
намерении Японии
невероятно жестоко и
с жестокостью
и товаром, и веревки
одежде и движению
продуктов, и товаров.
1/3 1938. Лозинко

35) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

35) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將

35) 1938年 7月 13日 東京山王ホテルで赤都記者團と會見の
リニシコフ三等大將



ソ連國境、黒龍江をへたて、不気味に對峙をならむ
ゲ・ヘウの監視塔と監視船。ゲ・ヘウには泣く子も黙
る。

1935年モスコのメーデーに開兵する五人の赤軍
巨頭。そして今、中央のソ連國防人民委員ウオロシ
イロフ元帥を除く他はすべて、反革命陰謀、トロツキス
トの名を冠せられスターリンの血の粛清の犠牲となつて
しまったのだ！

去年六月自己身邊の危険をいち早く感じて
自殺した方マルニク大將、赤色革命の偉大なる功勳者ト
ハチエフスキー元帥（銃殺）、中央ウオロシイロフをお
いて、昨年末逮捕された参謀總長エゴロフ、内務人民委
員（ゲ・ヘウ長官）ヤゴータ（銃殺）、キエフ軍管區司令
官ヤキール（銃殺）。

メーデーの日モスコ赤の廣場にウオロシイロフ國防
人民委員の一赤軍及び國民に告ぐ」の激動演説にきゝ入
る革命陣團及び市民武裝隊。

前述べた様にスターリンは外國の侵略及び帝政復活の危険性を
宣傳して國民を脅かして居る、其の爲に凡ゆる公判事件を利用し
て資本主義國では到底思ひも寄らぬ様な刑罰を國民に課して居る
が此の事が國民大衆に非常な影響を與へて居ることは疑ふべくも
無い。最後に日本へ來ての私の第一印象を附言すれば次の二つである
即ち支那事變中と言ふのに一般の生活状態に何等平時状態と變

りの無い事が、始めて日本に來た新鮮な私の目に直ぐ映じたこと
是れが一つと、ソ連邦の各新聞ははつきりと日本の經濟状態が過
迫して居るとか、生産品や商品の値段が恐ろしく高いとか此等が市
場から段々姿を消して行くとか書いて居るに拘らず、事實は食糧
品や其他の商品が豊富で而も値段の安いことはそれが二つである。
一九三八年七月一日
リニシコフ



五月一日労働祭の示威行進に降り
狂ふソヴェト民衆

明日の生活も世界の動きも念頭になく唯
その日々を暮らすコーサカスの民衆



ソヴェトの邊境、タヌ・チユハ共
和國の農民と農家

ソヴェト、殊に田舎はまだほとんど
文化がゆきわたつてゐない。物資も非常
に缺乏してゐる。
たまに訪れる郵便夫からサラ紙に刷つ
た新聞紙をうはふやうに食ひ入るウズ
ベク地方無産農家の農民たち。

領土主義のため何も知らない
コーカサスの農牧の民。文化と
幸福はまだ、彼らの上に訪つ
れない。

帝政時代の昔の想ひ出を胸にひ
そめるコーカサスの老人

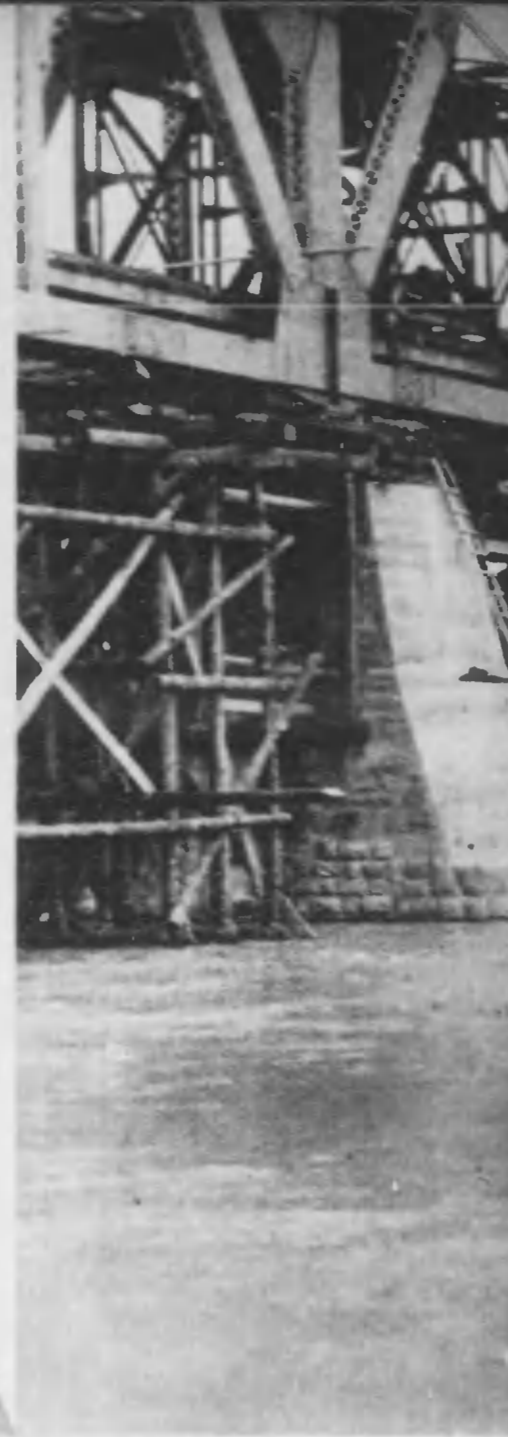


パソムのパシエト建築家、ソヴェ
トには至るところにこんな建築家があり平
時から一般市民にこの訓練を強制してゐる



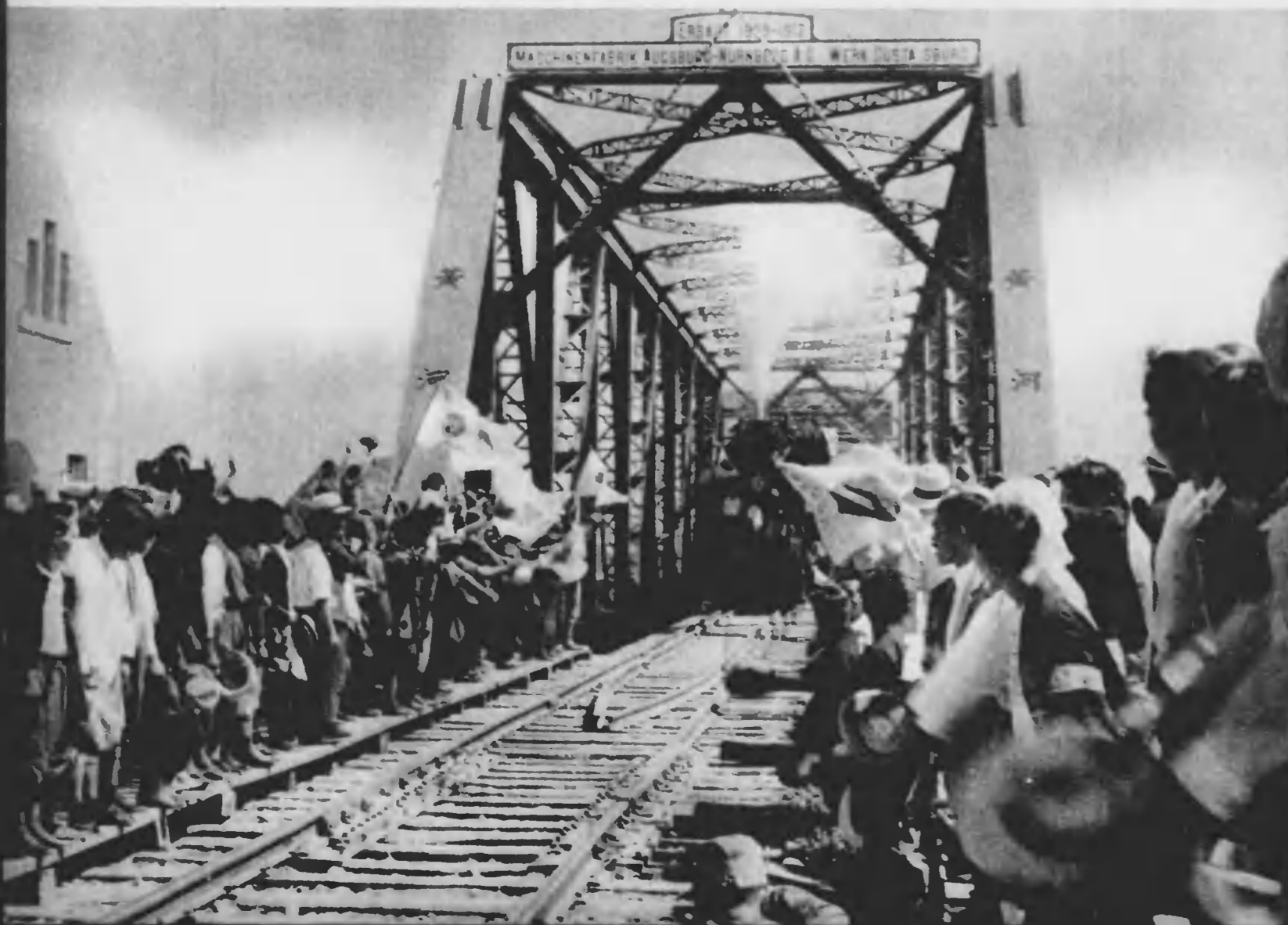


満々たる黄河の流れを下に見て
一連々と鐵骨を架けて行く
組立作業の勞苦も、皇軍渡
す日の喜び思へばなん
のさ



大陸日本建設には凡ゆる困難を克服し
て進まねばならない。黄河大橋の修理
は建設戦の第一着手として、本年一月末
工事第一班到着以來、わが土木建築界の
全智全能力をあげて開始された。

黄河の鐵橋修理完成



夜を日に繼ぐ努力は報ひられて、七月一日修理なつた鐵橋上を
々々たる響をあげて第一列車は通過した。歡呼の聲は黄河に響き
國の大建設に實なる一頁はこゝに加へられた。



皇軍の猛襲にたえかねて、
改走する支那軍がわが急進を
のがれるため、暴戻にも黄河
の大橋を爆破したのは昨年
の十一月であつた。

絶せむじた日本の優秀な
技術者は日頃鐵橋の腕前示
すは此の秋と、リベツチン
グ作業にも日本工學の威力
を打込む。



街に拾ふ

經濟戰風景

大陸に聖戦、國內には經濟戰！ 街に拾ふ經濟戰風景。買溜めや發りおしみは大和魂では出来ない苦です。虚體を履し見得をつくろはす、總てが銃執る氣持で、銃後も國家經濟と實業でつと組まう。

本總の轉賣禁止を見越して品物を選び出す不心得な問屋
個人のおづかな欲望から、總力戰を忘れた、非愛國的混亂の何んと無いことか
政府は全機能をあけて配分の統制に乗り出した。經濟警察は總力戰の足並を揃へさせる經濟保安隊だ。



錦製品又は車製品の買溜り非愛國的行為に付
一人一品種一限り販賣して官商工省から御連
御承と願ひます
日本百貨店組合

撮影 内閣情報部

府政

物價積極的に引下へ けふ取締規則を公布 麻製品外十三品に適用

消費制限を強化

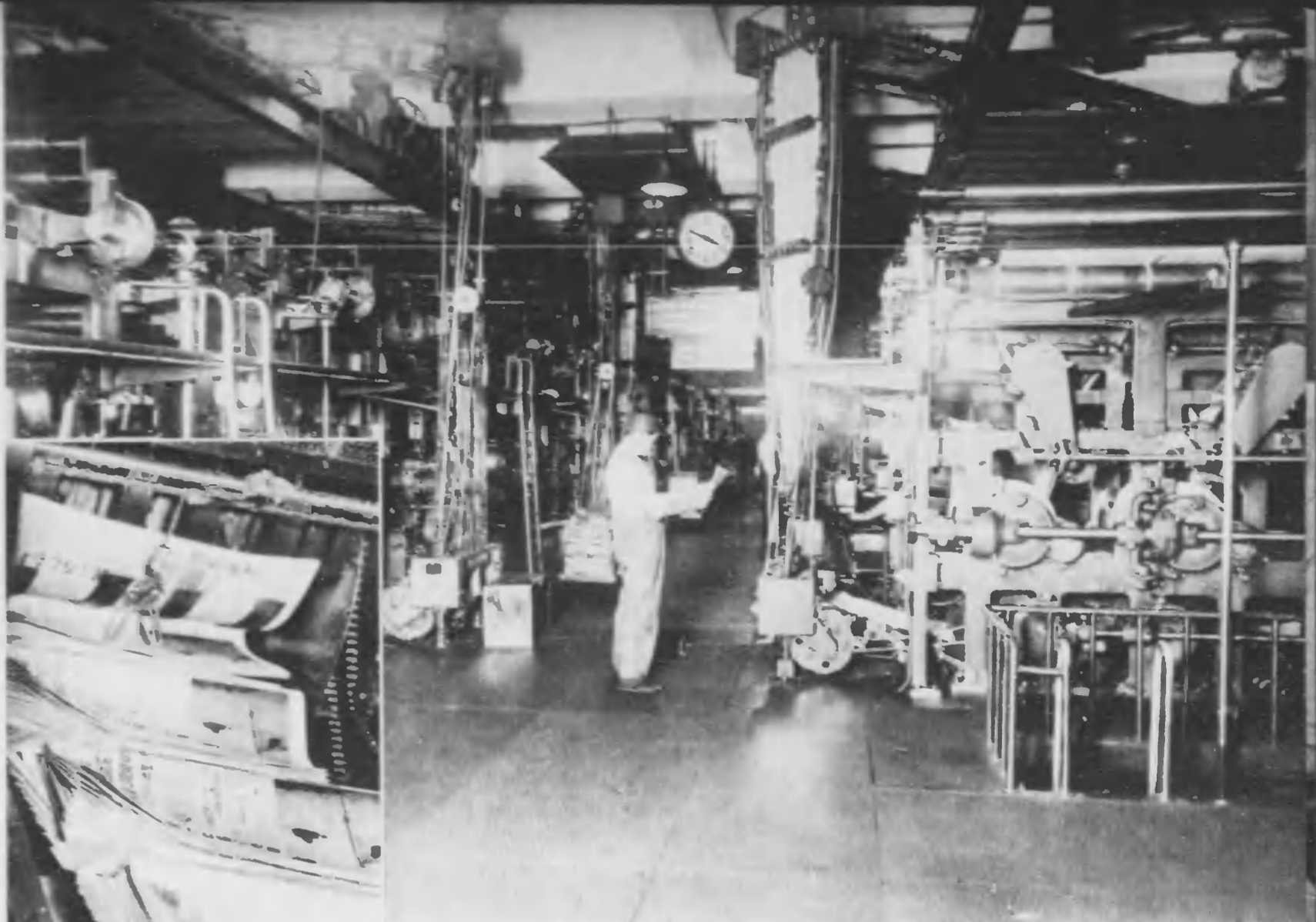


綿、毛製品の新調は出来るだけ差控へよう
又、皮革、ゴム製品の新調も差控へねばならぬ。國民みんなが協力して物價の調整につとめよう。

消費節約、勤儉貯蓄は、先づ生活の簡易化から初めよう。東京市小石川區大塚方面館では三圓(衣食・會場費一切)で結婚式が挙げられる。平服で然も厳肅に行はれる、このやうな式こそ、今後勤勞大衆の生活様式にとり入れられねばならぬ。

大蔵省は率先して、その工事を一時中止した。國家の存続を預る大蔵省は未だバラツクで不便をしのいでいるのだ。國民も多少の不便はしので新築改革を止めよう。國家國民の安危をかけた、長期經濟戰の大蓋は切られた。國民諸君、用意はよいか！





わが国の新聞紙一ヶ月の発行量は約三十五萬トン、これが各家庭に配達されるわけだが、古新聞紙として回収されてゐるのは現在のうち約二割、六萬九千トンに過ぎない。

たとへば一枚の新聞紙でもこれが国家の重要資源だと思へば粗末には出来ない。讀んだばかりで破れたものも、各家庭できちんと整理して屑屋に賣らう。



さうすれば紙屑問屋の手へて包装用、製袋用、養生用等として廣くその需要家に供給される一方再生製紙工場に運ばれ、ばね紙、巻紙などとして生れ変わる。また、古新聞紙として二度、三度の役目を果たした後のぼろ／＼の紙屑でも立派に再生の道が與へられてゐる。

例へば代用フェルト製造工場では、これを叩解機にかけてとなし、脱色して一種の紙屑パルプを作る。叩解機には原料紙屑十貫目に對し二百匁の苛性ソーダを加へ、約一時間半の操作で相當な程度にまで脱色が行はれる。

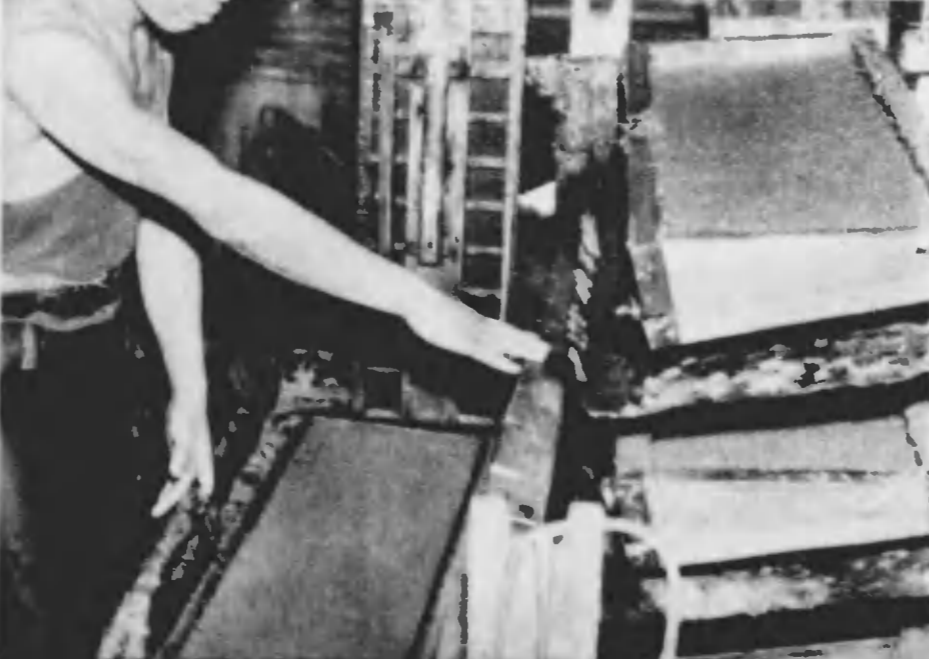
紙屑パルプは水で解かして傾斜のある型に流し込み……

うさか生を屑

トルエフも聞新古

るなに履草の

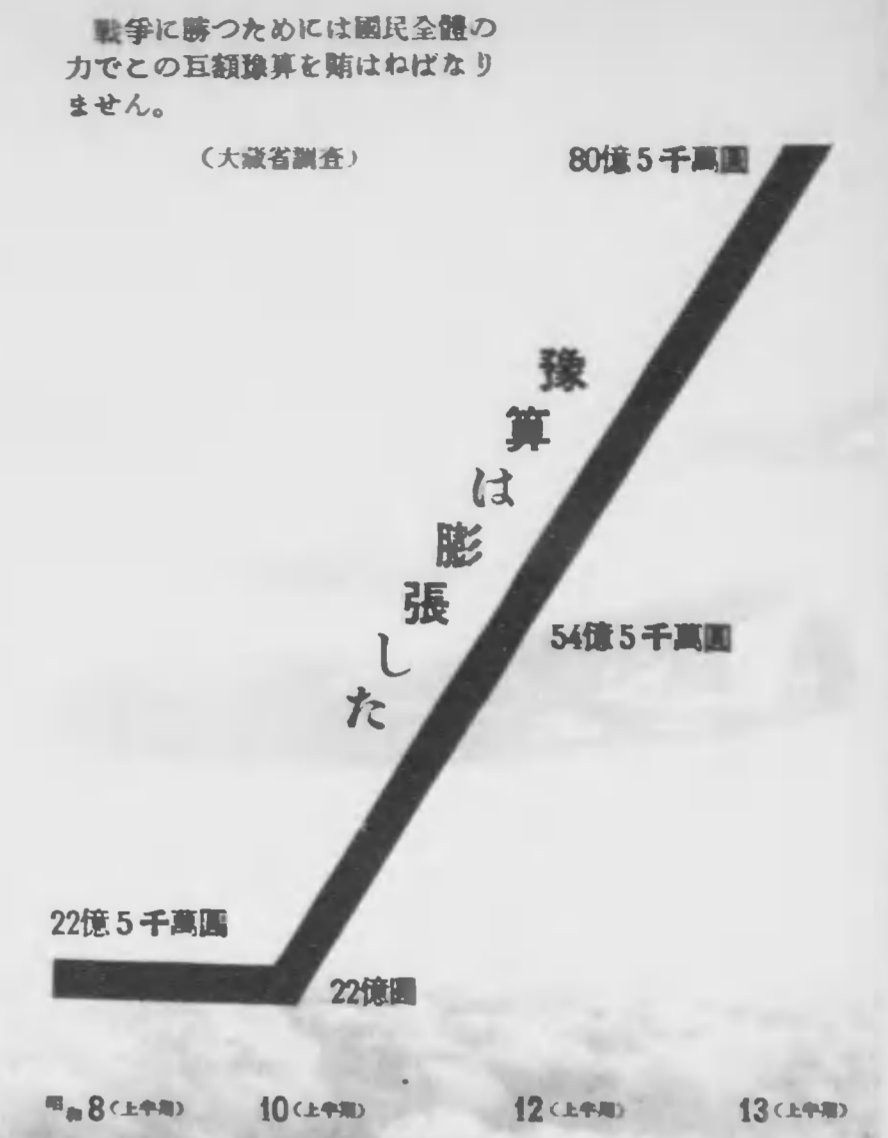
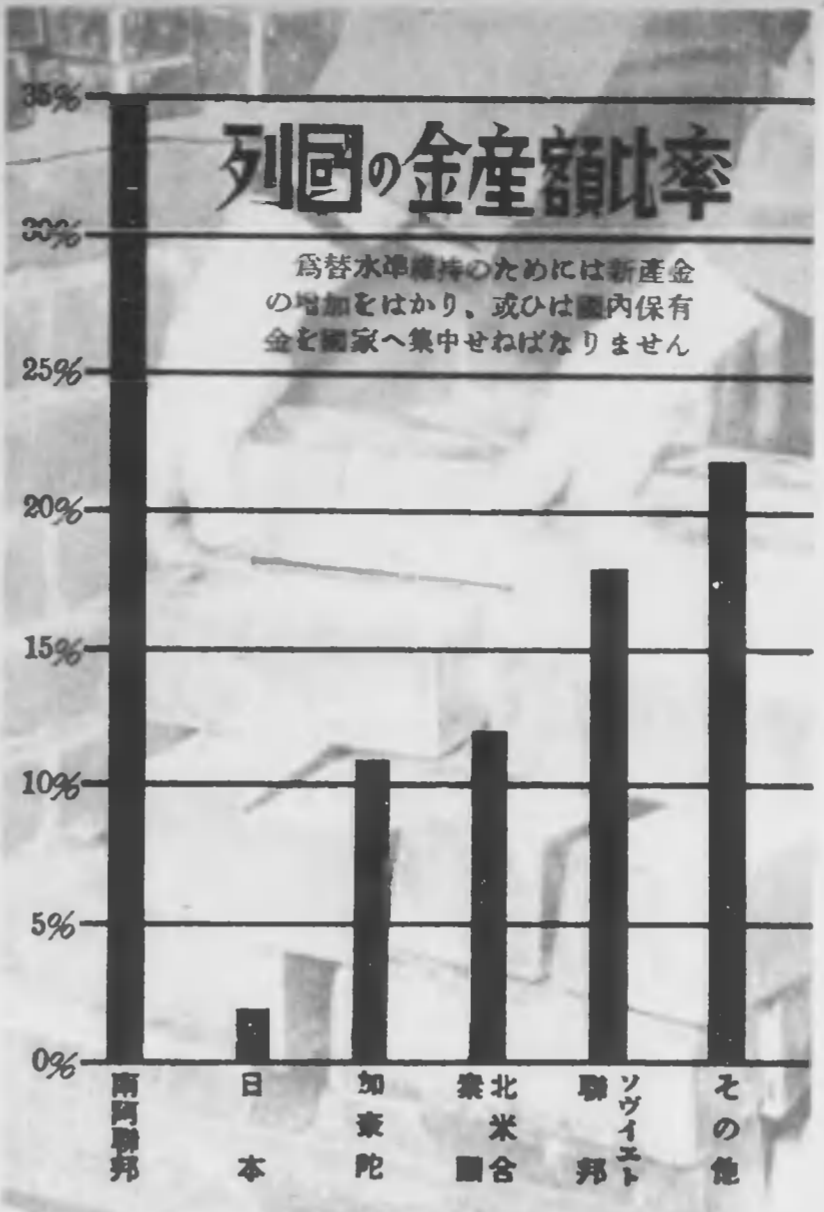
水分を乾燥して、乾かすれば紙製の代用フェルト材料が出来上る



これを打抜機で適當の大きさに打抜き、數枚合はせて糊付けをし美しい彩色の上張りをして張りつけ、鼻緒をすけ草履が出来上る。

フェルトには今まで綿布を使用してゐたが、新聞紙が見事にその代用をつとめることになつた。又美しい上張りや鼻緒は従來特殊な加工を施した紙製品で草と同様の役を果たしてゐる。

撮影 望月文吾



全國職業紹介所は國營に

厚生省

朝六時、東京深川の江東橋には千人をこえる登録労働者(夫婦で月収十五圓以下のもの)が列をつくつてゐる。職業紹介所にてその日の仕事、その日の糧を公平に分配してもらふの犬

「おつと、今日はこりや大仕事一紹介票をもつていそいそと現場に向ふ。雨の日もあらうが、アブレる日もはいつもあなたかい思ひやりでこの人たちのことを考へてみてくれる。東京深川労働紹介所。」



七月一日から國營の職業紹介所が開設された。

我國の職業紹介事業は徳川時代の口入、町筋等がその嚆矢である。明治の末、慈善事業として下層の労働者層に日本の仕事を世話するものかを生じ、歐州大戦後多數の失業者が露出するやうになつて、大正十年職業紹介法を制定、國家の監督の下に市町村をして職業紹介所を設置せしめ、その施設の普及を圖り、逐年著しい發達を遂げたのであつたが、なほ、その施設は失業者の授産教育をこなつたのである。然るに、滿洲事變を契機として漸次生産力の擴大、國防の充實に向つて我が國の産業の轉換が行はれるに至り、之に對する職業紹介事業の協力が要され、更に昨年七月支那事變の勃發するに及んで、當面の問題として軍需品の製作等に從事すべき労働者の充足、授産教育を受け休業を余儀なくされる犠牲産業従事者の職業轉換、若者の為努力して歸還された軍人若名譽の職を自はれた軍人の就職の斡旋等職業紹介事業の取組には大きな使命が負はされるに至つた。

この大きな使命の達成には、職業紹介所を擴充強化して全滅要の地に配置すると同時に、全國の職業紹介所が一體となつて活動し得るやうに、一元的に統制することが必須であつて、然るに市町村等の職業紹介所では財政等の都合で分布の差正を期し難く、内容が大小區々であり、その一元的統制も至難であつた。茲に於て職業紹介法を改正して、職業紹介事業は國家自ら之を行ふこととし、全國に約四百ヶ所の職業紹介所を設置する計畫で、さしあたり百九十六ヶ所(其の内四十二ヶ所は日僑労働紹介専門)を開設したのである。職業紹介所では人を輸入したい人と、就職口を求めたい人ととの媒介をするのであるが、その外國人を最も優先して紹介するに國民として如何なる職業に就かしむべきかを考へ、又、求職者本人の性質・知識・技能等とその希望、家庭の事情等を詳細して最も適當な職業に就くやう指導する職業指導、就職を容易にする爲に職業に關する知識や技術を授ける職業訓練なども併せて行ふこととなつてゐる。



求職受付

たゞ飯をくふための労働者ではなく、努力と反省で生活を向上させよう。勤労の神聖と価値を悟り、そしてこれに對して感謝しよう。労働修練道場はこの目的で生れたのである。東京 江戸川労働修練道場。



の労働の適正な配置といふことに最大の考慮が拂はれて居る。東京職業紹介所神田橋分室。

平時産業に働いてゐた人々のうちには、事業下の困難により従来職業で生活の安定を得られなくなつたものがある。これらの人は直ちに「求人」發到する軍需工場の人工により向けられる。たゞ救済事業でなく、國家として



職業相談 身體検査表、性能検査表をじつと見つけて相談をしに來た人の行くてを案するの事は、ほんとうに親身なつてやらなければ出來ない。健全な社會の一員を誕生させるか、させないかといふ大切な場所だ。東京職業紹介所。

一般職業紹介所は「一般部、工業部、軍人部、婦人部、少年部」と分け、それ／＼日本國中は勿論、滿洲支那までその組織と機構をばりめぐらし失業者撲滅の戦ひをしてゐる。眞剣な少年部求職者よ、心から諸君の健全な自活を祈る。東京職業紹介所。



「さア、いよ／＼行くぞ、待つてゐるのは新しい人生だ。内地に暮した二十七年、今にして想へば多少の感傷がないことはない、死んだおふくろ、病院にゐる兄貴、だがオレは「意志強固にして更生の意氣熾烈なる者」この懸賞資格に合格して滿洲へゆく一員だ。東京野郎（週報第七九號「實現する國營職業紹介所」念照）

山端 廣介



アツラシ治明

味の粹生実果鮮新・のもみ飲おの番一第・夏



御進物
一品適最もに

ユシツカス治明 姉妹品
スーユジ治明



治明製菓株式会社

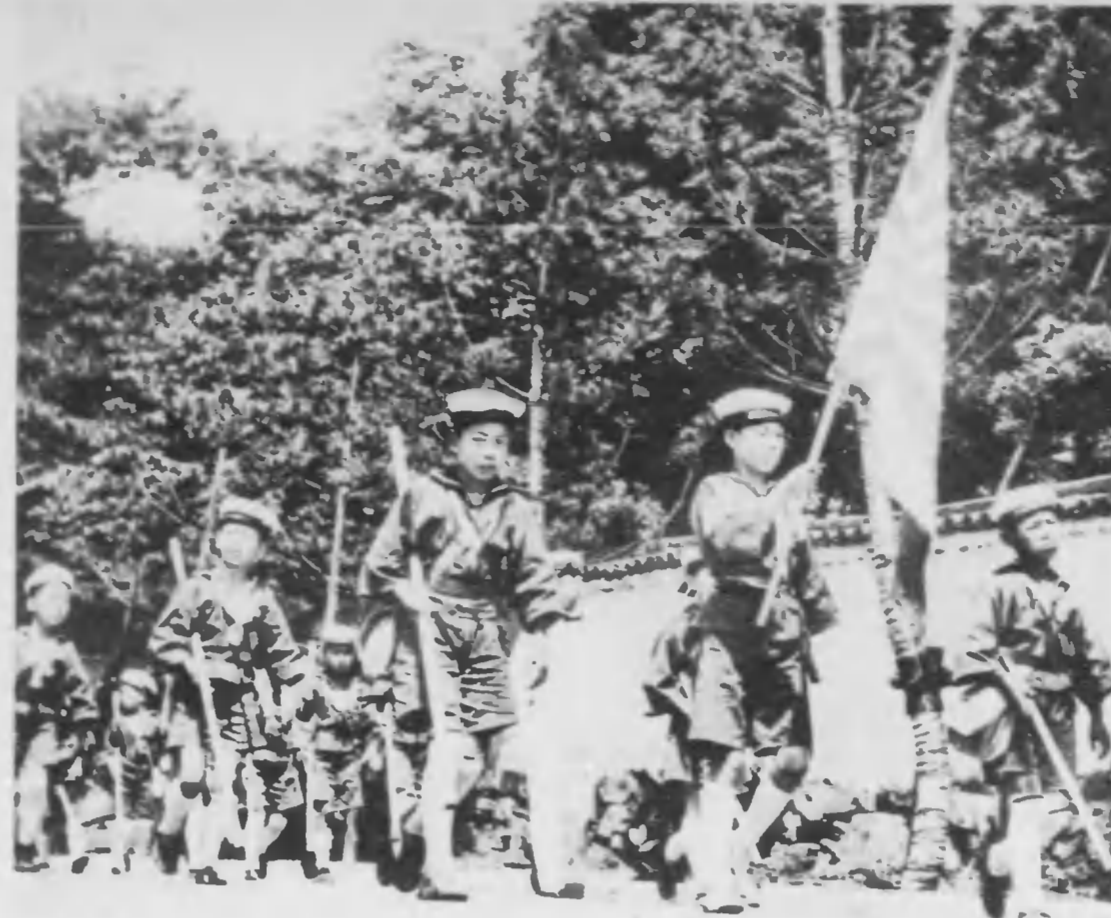
内閣情報部監修 第一輯 公開中

映画月報

時事解説映畫

國策に沿った
面白い

社信通豆同 製作



六ツノブタイチヨウ
京都市南禅寺京田町四一

田植進軍
三浦河野郡上野寺小学校寫眞部
應召軍人の家族をまらうと雄々しく立つた労働奉仕の少年少女たち。田植進軍は、かく早く戦果を残して最後の時に肉迫しつつある。大代をになふ、この力、この精神、伸びる日本の行手は明るい。

読者のカメラ

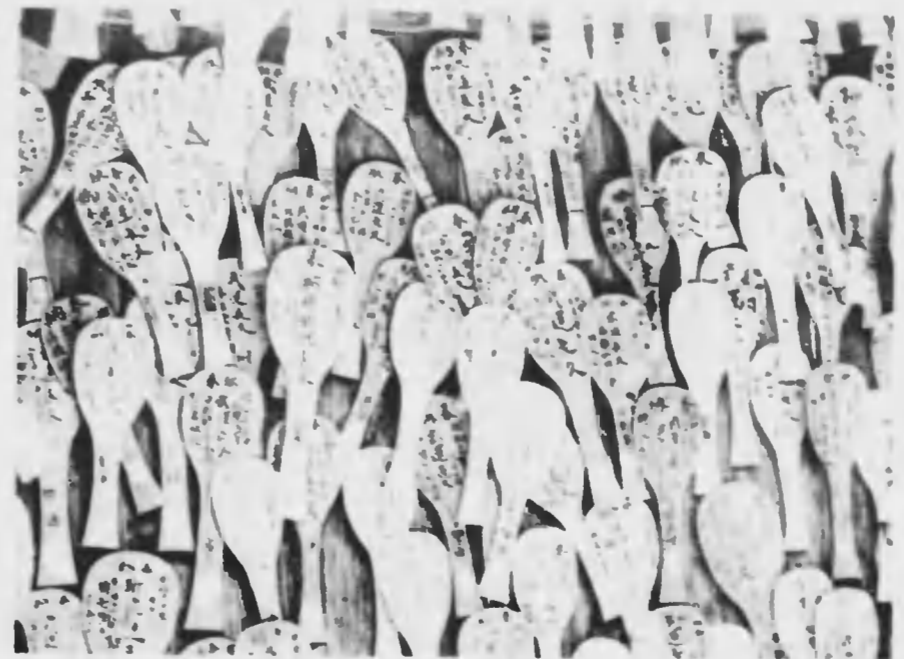
作應品募

読後の海洋少年

京都市伏見区 山口見司
海の荒鷲の華々しいさほしや、陸戦隊の勇ましい戦争の話を、御父さんや学校の先生から聞く度に、僕等の心は躍り血は光ります。今日も僕等は出征将兵の武運長久祈願に隊伍々々、桃山御陵に参拝しました。先軍の偉業を繼いで、鐵壁の海の護りとなる日が待遠しくなりませぬ。

しやもち一新願

京師本花村 長介貞義
お宮やお寺への奉納品も、時局を反映して「祈武運長久」と記されたものが多い。こゝに宮崎縣住吉神社の壁に貼られたしやもちの群像を見よ。戦場にある父の、子やも夫の上を想ひ捧げる。一本のしやもちに飽められるこの心、遠く大陸の空に通じよ。



所 込 申	價 定	昭和十三年七月二十日印刷発行
寫眞週報(兼轉載)	一ヶ月(前巻) 四圓八十錢	發行所 内閣情報部
寫眞週報(兼轉載)	一ヶ年(前巻) 四十八圓八十錢	印刷所 大日本印刷株式會社
寫眞週報(兼轉載)	一ヶ年分未滿配達御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を送(御申込み下さい)	加寄町一ノ二番
寫眞週報(兼轉載)	寫眞週報(兼轉載)	東京市神田區本町
寫眞週報(兼轉載)	寫眞週報(兼轉載)	内閣情報部
寫眞週報(兼轉載)	寫眞週報(兼轉載)	東京市神田區本町
寫眞週報(兼轉載)	寫眞週報(兼轉載)	大日本印刷株式會社
寫眞週報(兼轉載)	寫眞週報(兼轉載)	東京市神田區本町
寫眞週報(兼轉載)	寫眞週報(兼轉載)	加寄町一ノ二番

寫眞週報(兼轉載)

日九辨富の懸橋、經濟界への彈丸、超廣角レンズの眼で視た裡り飯

内閣情報部攝影

東京通報 昭和十三年三月二十二日 第三三三三號
（普通）四月六日發行（郵送）四月六日發行 第廿三號



（本書の大きさは規定規格A4・「通報」倍判）